

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス事業所ぶんすい		
○保護者評価実施期間	令和8年2月2日		令和8年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28人	(回答者数) 27人
○従業者評価実施期間	令和8年2月17日		令和8年2月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11人	(回答者数) 10人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月23日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所の近所には、福祉に関する社会資源や地域への貢献団体が多数あります。また、小さな商店もいくつかあるため、歩いて行きやすいです。	地域や団体から障がい理解を深めてもらいたいため、事業所への来所で一緒に活動したり、こちらから出向いたりして関わりを持つ機会を設けています。	何気ない日常(挨拶、散歩、商品を買に行く、など)を通して事業所や障がいを知ってもらうため、可能な限り外部へ出向くと共に、子ども達に様々な体験と経験の場を広げていきます。
2	障がい特性の違う幅広い子どもを預かり、支援しています。	全体で行動する時間を多く確保し、意図的に褒める場面を作ることで、子どもたちが互いに「良いモデル」となれるよう工夫しています。「自分も褒められたい」「友だちのようになりたい」という憧れの気持ちを刺激し、自発的に行動できる環境づくりを行っています。	それぞれに合った学びを確保するため、少人数での活動も提供していきます。
3	迎え時の対面コミュニケーションを大切にしつつ、療育支援システム「HUG」での発信にも力を入れています。	事業所での子ども達の生き生きとした様子を、写真を交えて伝えています。	言葉では伝わりにくい表情や仕草など、新たな成長や気づきの発見も写真とおして積極的に発信し、保護者の安心と信頼関係の構築につなげていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	長期休暇期間は支援時間が長時間に及ぶため、現状の職員配置では適切な休憩時間の確保等に困難が予想されます。	質の高い支援を継続するためにも、職員体制の整備やICTの更なる活用による業務の効率化を図る必要があります。	お互いにフォローし合える良いチームワークを大切にしながら、引き続き、人材確保や職場環境の改善に努めていきます。
2	事業所の近くには、他の子どもと関わる場所が少ないです。	近隣には小さな公園しかなく、同年代の子が集まる公園や児童館までは2キロほどの距離があります。現在その場所への移動には安全確保に十分な職員数を割くことが難しいため、定期的な外出活動の実施はハードルが高いと考えます。	遠方への外出が難しいため、「地域の方に遊びに来てもらう」という視点を大切にします。地域のつながりを活かした、施設の中でできる新しい活動を検討しながら、まずは小さなことからみんなで挑戦していきます。
3	事業所のマニュアルや避難訓練の実施状況について、保護者への情報発信共有が十分ではありません。	迎え時に保護者へ伝えたり、館内掲示を使って周知に努めていますが、更なる周知が必要と考えます。	現状の周知を行いつつ、HUGを最大限に活用し、定期的かつタイムリーな情報発信を行います。対面・掲示・デジタルの多角的なアプローチにより、マニュアルやそれに基づいた訓練の実施状況の周知を徹底していきます。